

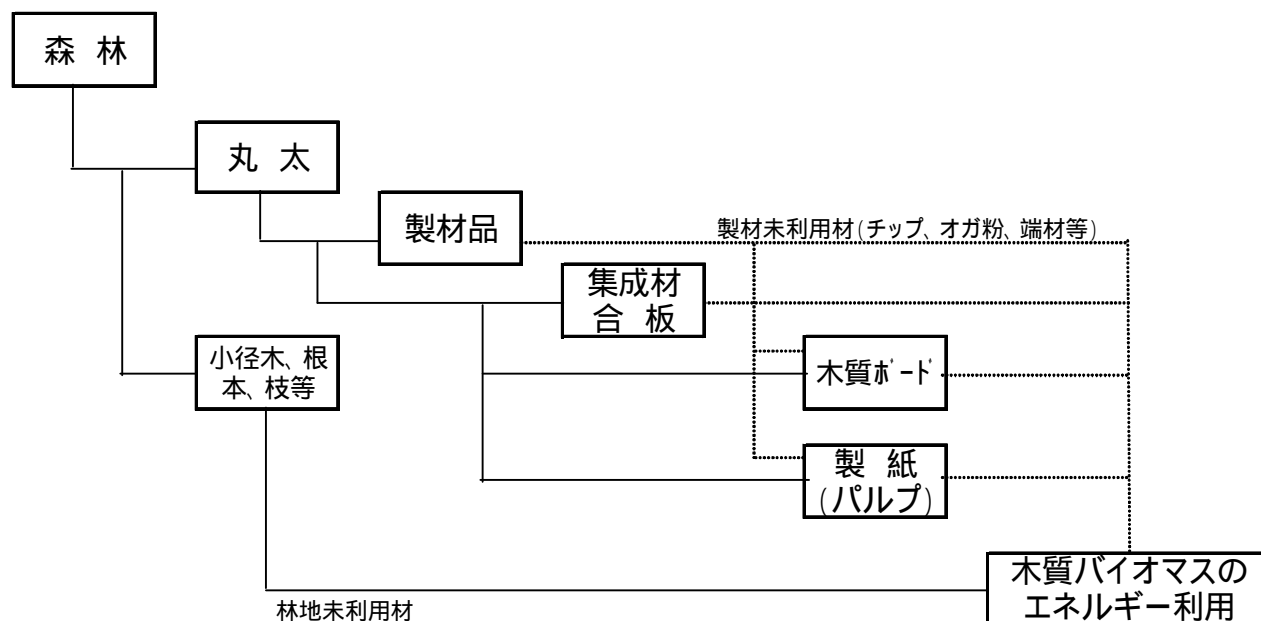
4 木質バイオマス利用に関連する山梨県の現状

現在の木質バイオマス利用は、北米やヨーロッパにおいて、柱や板などを生産する大規模な製材工場において、製材時に排出される端材やオガ粉を有効利用する対策の1つとして、石油の代わりに燃料として燃焼させたことが始まりとなっています。

木質バイオマスは、丸太からの主産物となる製材品を加工する際に得られる副産物であり、森林から出てくる多様な木材は、一般には高価な建築用の製材品が最初に取りられ、やや品質の劣るものが集成材や合板になり、それ以下のものがボードや製紙用パルプになるといった、良いものから段階的に取っていくカスケード利用がなされています。

このため、木質バイオマスの利用は、その資源となる森林の状況のほか、森林資源を搬出・加工して製材品や製紙パルプ等の原材料として利用する林業・木材産業との関連が重要であり、山梨県の現状を踏まえた利用方法を検討していくが必要になります。

図3 木材のカスケード利用



4 - 1 森林資源の状況

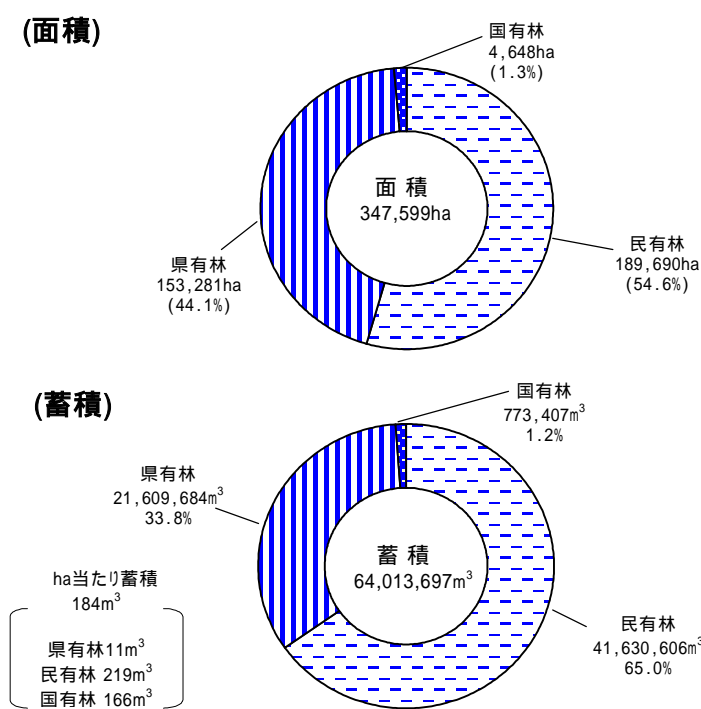
< 森林面積、蓄積 >

本県の森林面積は、34万8千haで県土の78%を占め、国有林5千ha(全体の1%)、県有林15万3千ha(44%)、民有林19万ha(55%)で、他県に比べ、国有林面積が少なく、県有林面積が大きいことが特徴となっています。

森林面積を県土面積で除した森林比率は77.8%で、全国平均の66.5%を上回り、全国4位と

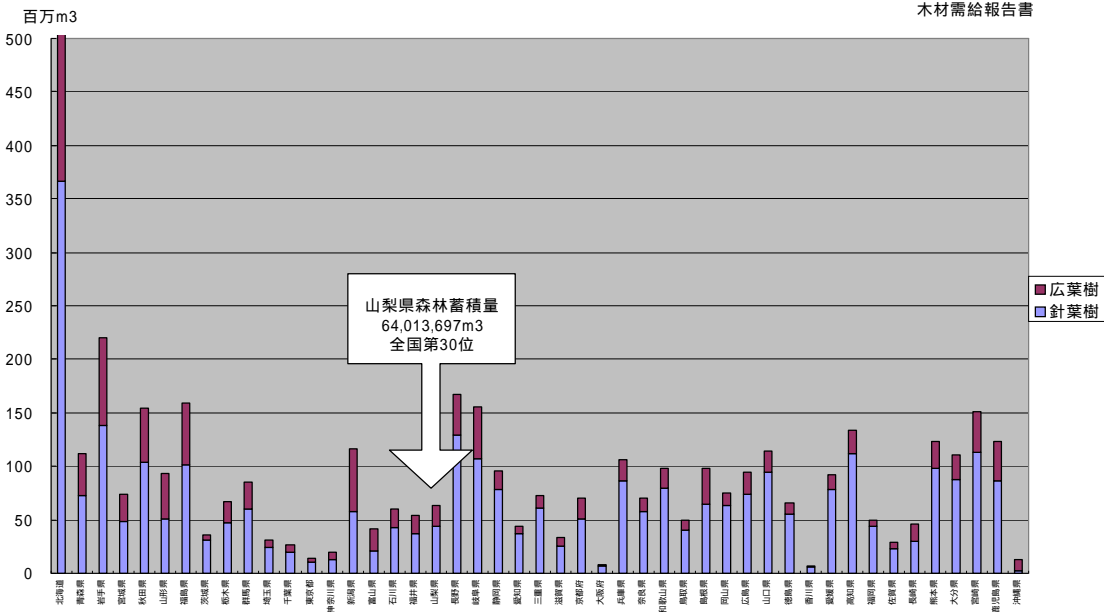
なっていますが、他県と比較して県土面積が広くないため、森林の蓄積量は6千4百万 m³ と全国で30 番目になっています。（図4，5）

図4 所有形態別森林面積と蓄積



山梨県林業統計書

図5 都道府県別森林蓄積量

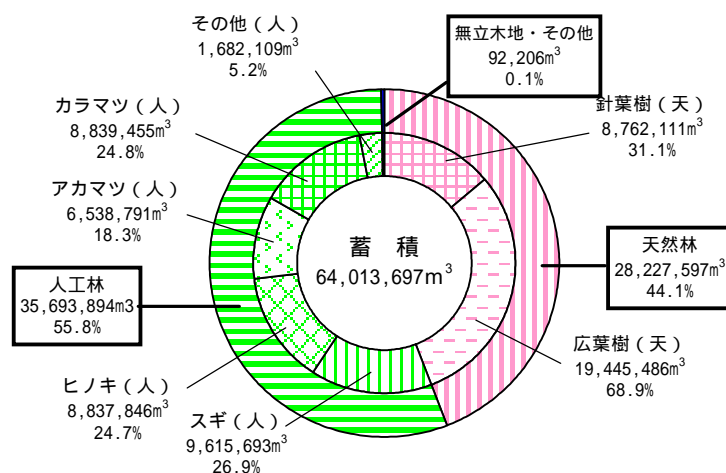


< 人工林・天然林割合 >

本県の人工林面積は 15 万 3 千 ha で、人工林面積を森林面積で除した人工林率は 44.1%で、全国平均の 41.2%を上回っています。

人工林の内訳は、スギ、ヒノキ、カラマツ、アカマツがほぼ 1/4 ずつを占めています。

図 6 樹種別蓄積量

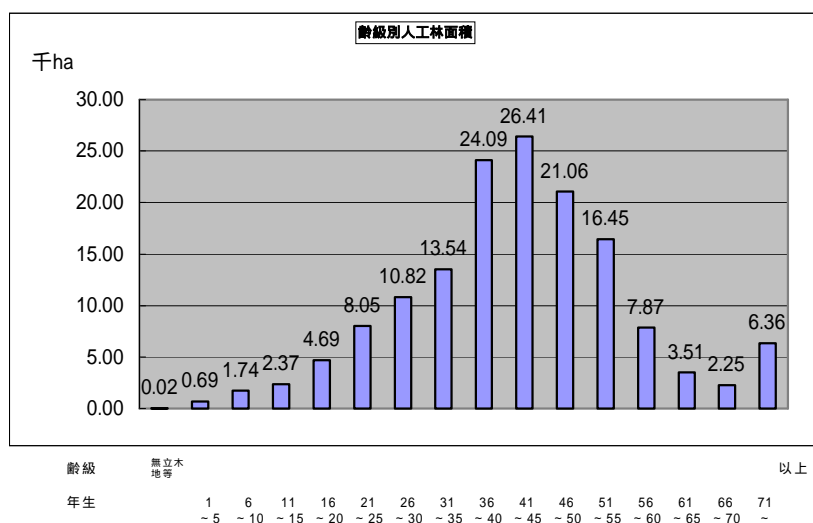


山梨県林業統計書

< 齢級別人工林面積 >

人工林の構成齢級は、間伐の対象となる 20～35 年生が全体の 25%、利用可能な 45 年生以上の森林が 38%を占めており、伐期に達した森林の占める割合が増加しています。

図 7 山梨県齢級別人工林面積



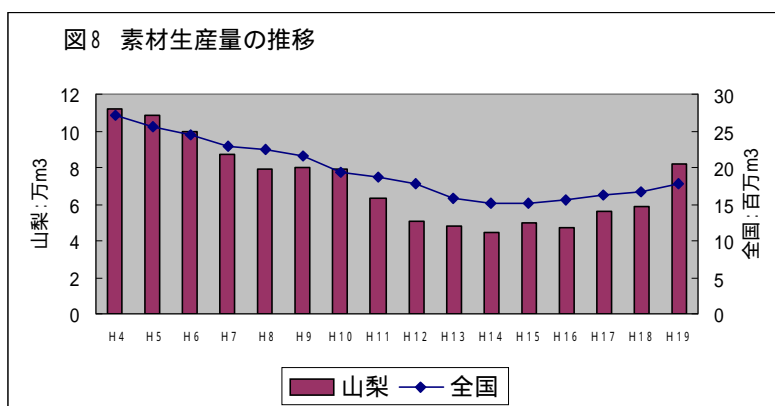
山梨県林業統計書

4 - 2 林業

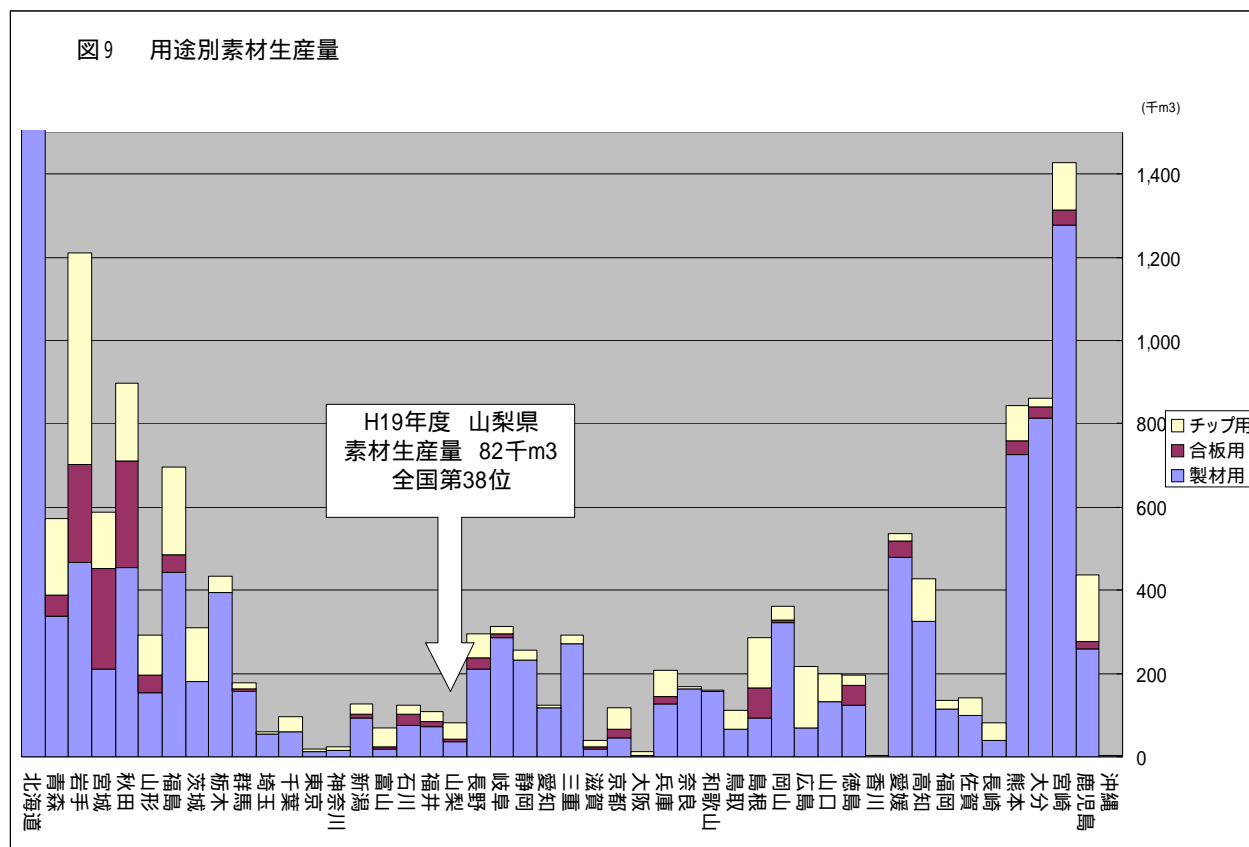
< 素材生産量 >

本県の素材生産量は、平成 19 年で 8 万 2 千 m³ で、その用途は、製材用が 3 万 6 千 m³、チップ用が 4 万 m³、その他(主に合板)が 6 千 m³ となっています。素材生産量は平成 14 年までは減少を続けていましたが、最近は県内の森林資源量が充実する一方で、国際的な需給の変化などにより海外から輸入される丸太が減少し、全国的に国産材が見直されてきており、増加に転じています。

しかし、森林資源の状況などから、他県と比較すると量的には少なく、平成 19 年の生産量は全国第 38 位となっています。



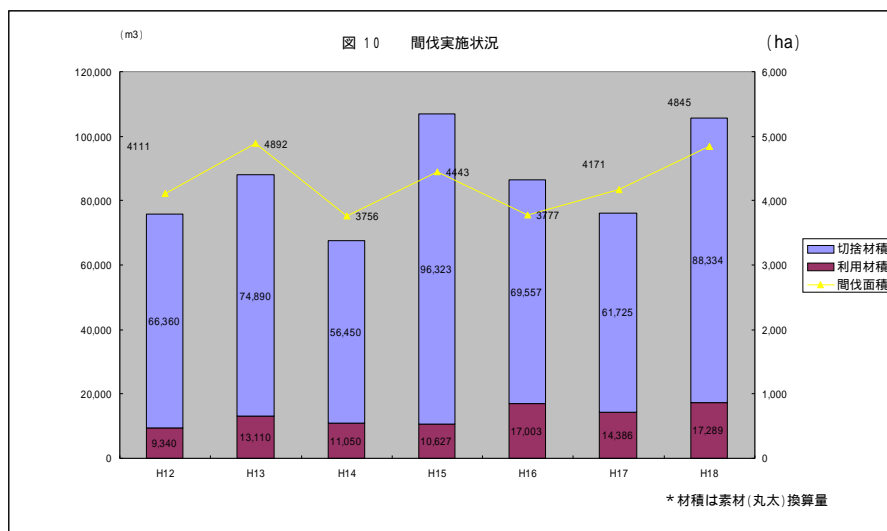
木材需給報告書



木材需給報告書

< 間伐 >

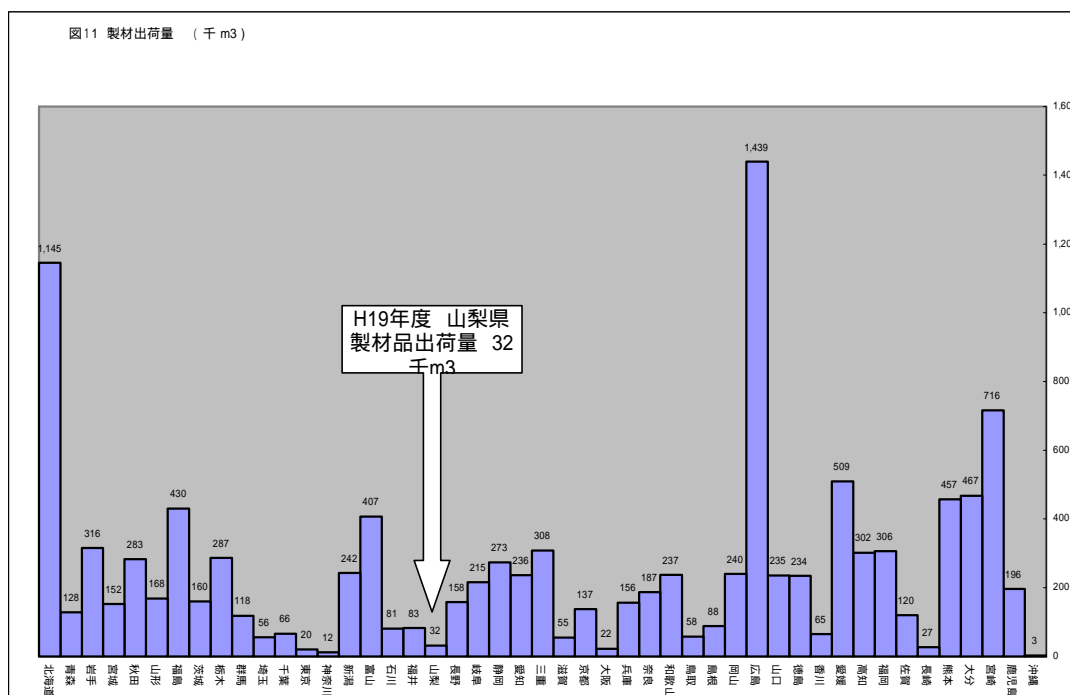
本県の間伐は、平成 18 年度は約 4,800ha で実施されましたが、切捨間伐の割合が多く、約 12 万 6 千 m³ が森林内に残置されており、これらの搬出及び利用が課題となっています。



山梨県業務資料

4 - 3 木材産業

平成 19 年現在で、本県の製材工場は 56 工場ですが、他県に比べて大規模な工場がないこともあり、製材品の出荷量は少なく、3 万 2 千 m³ で全国第 42 位となっています。



木材需給報告書

平成18年度における本県の木材の流通は、図12のようになっており、県内で生産された5万9千m³の素材のうち、2万3千m³が県内の製材工場で建築用の製材品等加工されています。これに対し、県内の建築用製材の需要量は約18万m³であり、供給の不足分は海外を含む県外から移入されています。

図12 本県の木材の流通(H18年度)

